

2026 年 2 月 3 日

|          |   |                                 |
|----------|---|---------------------------------|
| 商        | 号 | SBIアセットマネジメント株式会社               |
| 金融商品取引業者 |   | 関東財務局長(金商)第 311 号               |
| 加入協会     |   | 一般社団法人投資信託協会<br>一般社団法人日本投資顧問業協会 |

### 金市場急落の背景と今後の見通し

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

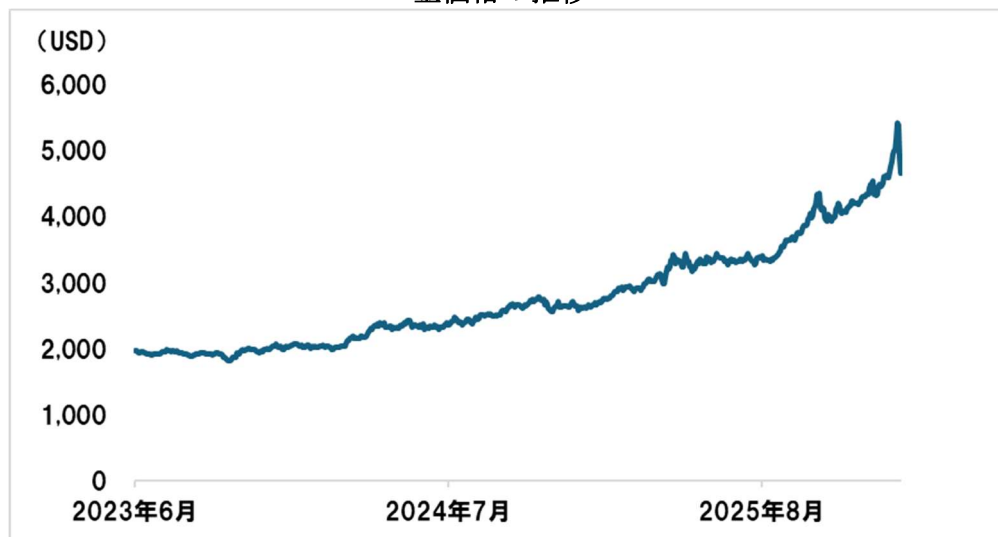
2026 年 1 月 30 日の海外市場において、金価格は大幅に下落しました。年初来、インフレ懸念や地政学リスク、金融緩和期待を背景に金価格は急騰し、1 月 29 日には過去最高値を更新していましたが、その反動として急激な調整局面に入りました。当日の金価格下落は、米国金融政策を巡る見方の変化を主因として、為替市場や株式市場にも影響を及ぼしました。

#### 1. 急落の主因（金融政策・為替動向）

米国金融政策に対する見通しの変化を背景に米ドル高が進行しました。米ドル為替レートは、ドル円仲値ベースで 1 月 30 日から 2 月 2 日にかけて 153.66 円から 155.29 円へ上昇（約 1.1% のドル高円安）しました。

背景として、次期 FRB（米連邦準備制度理事会）議長に指名されたケビン・ウォーシュ氏が金融緩和に積極的ではないとの見方が市場で広がったことが挙げられます。これにより、米国の金利高止まり観測が再燃し、ドルが反転上昇したことで、ドル建て資産である金への下押し圧力が強まりました。

金価格の推移\*



○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

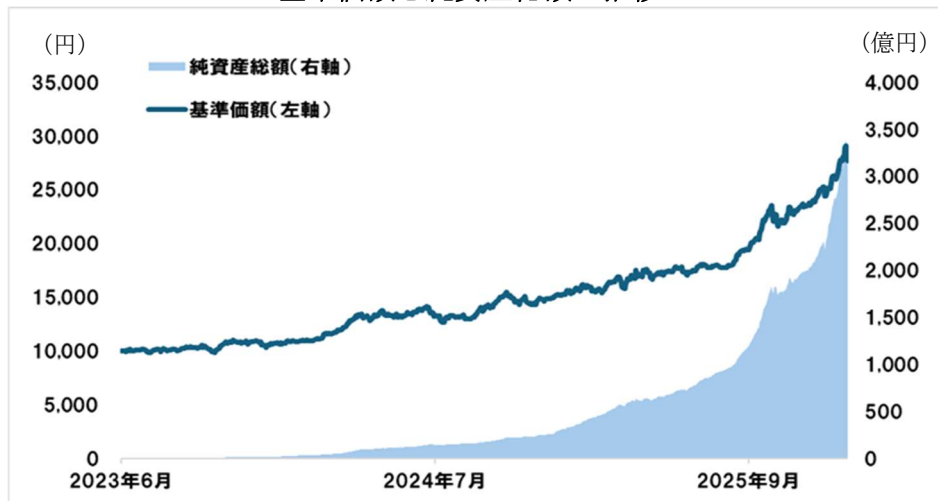
## 2. 金市場の需給・テクニカル要因

金市場では、数週間にわたる急騰を受けて高値警戒感が強まっていました。1月29日に過去最高値を更新した後であったことから、投機筋を中心に利益確定売りが出やすい環境にありました。1月30日の金（スポット）価格は前日比約11%下落の4,720ドル付近まで急落しました。短期的な利益確定売りや、ドル高進行、米長期金利上昇観測が複合的に作用した結果と見られます。

同日には銀価格も大幅に下落しました。NY銀先物は前日比で約25%下落し、金以上に大きな値動きを示しました。これは、レバレッジを効かせた投機的ポジションの巻き戻しや、リスク資産調整が同時に進行したことが要因と考えられます。

金・銀ともに短期的なボラティリティが高まり、投資家心理の不安定さが顕著になった1日となりました。

### SBI・iシェアーズ・ゴールドファンド（為替ヘッジなし） 基準価額と純資産総額の推移\*



## 3. 今後の見通し

ウォーシュ氏は利下げには前向きと見られる一方、量的緩和などの非伝統的金融政策には慎重との見方があり、今後の発言や政策スタンスが市場の注目点となります。

金の需給面では、短期的には投機的な資金フローによる価格変動が想定されますが、宝飾品などの実需、個人投資家によるリスク分散目的の購入、ETF投資、中央銀行による外貨準備としての金購入は中長期的に拡大傾向にあると考えられます。また、米中対立をはじめとする地政学リスクの高まり、世界的な物価高止まり、主要法定通貨の長期的価値に対する信認低下を背景に、金を含む実物・代替資産への資金配分の動きは今後も継続すると見込まれます。

以上

※：通貨：ファンドは円ベース、金価格はドルベース

※：出所：ファンドは投信協会、金価格はBloombergのデータを基にSBIアセットマネジメント作成

\*\*\*\*\*【本件に関するお問い合わせ先】\*\*\*\*\*

SBIアセットマネジメント株式会社 商品企画部 電話：03(6229)0170

（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号、加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会）

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

## 投資信託にかかるリスク

本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産には為替リスクもあります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

また、投資信託は預貯金と異なります。本ファンドの基準価額の主な変動要因や留意点としては以下のものがありますが、以下に限定されるものではありません。詳しくは各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご確認ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

### 主な変動要因

- 金の価格変動リスク
- 為替変動リスク
- 信用リスク
- 流動性リスク

### その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ・有価証券の貸付取引を行う場合は、取引先リスク(取引の相手方(レンディング・エージェントを含みます。))の倒産等により契約が不履行になることが生じる可能性があります。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該運用方式には運用の効率性等の利点がありますが、投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じ、マザーファンドの組入れETFまたはETC(上場投資信託証券)に売買等が生じた場合等には、本ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

## お客様に直接・間接にご負担いただく費用等

(お買付時に直接ご負担いただく費用)

- お買付手数料 ありません

(途中解約時に直接ご負担いただく費用)

- 信託財産留保額 ありません

(保有期間中にファンドが負担する費用(間接的にご負担いただく費用))

- 信託報酬(2026年1月15日現在): 0.1838%(税込)程度  
※成功報酬制はありません。

### ●その他の費用

ファンドの監査費用、有価証券等の売買委託手数料、保管費用等本ファンドの投資に関する費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用(法律顧問・税務顧問等への報酬を含む)、開示書類等の作成費用等(有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等)が信託財産から差引かれます。

\*これらの費用は監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。

## 投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様へ帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。